

返却コンテナ問題 時間ロスの解決を

大ト協海コン部会役員会

【大阪】大ト協海コン部会（山口与福雄部会長）は15日、役員会を開催。

会議の冒頭では、デバンコンテナの洗浄などについて実態調査を行う。一度返却のたどの返バン問題について話し合われた。現在、空コンテナを返却する際に汚れやダメージがある場合、ヤードの判断でコンテナの洗浄を要請されることから、時間ロスが発生すると、業界内では問題になっている。山口部会長は港湾労働者が加入する労働組合の協力を得て、問題解決に努めると報告。同

労働組合からは「日時・コンテナ番号、ヤード名、乙仲名・船社名など詳しいデータ収集に努めてほしい」との要請があり、同部会でもアンケートを実施した。

山口部会長は「日時・コンテナ番号、ヤード名、乙仲名・船社名など詳しいデータ収集に努めてほしい」との要請があり、同部会でもアンケートを実施した。



中、指導報告となく申し入れを行った。山口部会長はこれに16社、回数に22日に国交省については39回自動車局長と面談が行われる時に、今回の車た。海コンに限りによる軸重違反については国際対しての問題解決に向けた要請も行うとした。

（佐藤弘行）

通行時に自動取り締まり機（カメラ）で認識され、ナンバープレートなどから会社名に指導報告書が届くと解説した。同自動取り締まり機では違反確認された3か月後に指導報告書が届く。詳しい資料を同高速会社に参加して過積載でないことを証明し、その後、2か月後に判断が正式に行われる。大量の台数が阪神高速などを通行している中で、取り締まりをされる度に違反でないことを証明するのは非常に時間と手間を要することから、阪神高速道路に対しても何度かアンケート結果を報告。回答数56社